

1) サイト概要

- 場所：タネカココ村は、コトヌから約 490km 離れたベナン中北部のドンガ県の北部に位置するコパルゴ市にある。村の背後には樹木に覆われた 200~300m の山が連なっている。サイトは、豊かな湧水が流れる麓の傾斜地にある。
- 養殖の形態：排水可能な池中養殖
- 施設内容：貯水池、水路、養殖池 6

写真 15



年中涸れることのない貯水池

写真 16



1973年に整備された水路と池

写真 17



1975年に整備された池

写真 18



養殖センター管理棟

写真 19



観光目的に建設されたバンガロー

- 養殖の経緯：

- 1973年：観光目的で貯水池と養殖池が建設される。
- 1975年：CeRPAが地域の養殖センターとして施設を拡充する。2年程で機能停止する。
- 1996年：大臣の要請でコトヌから種苗を搬入して養殖を再開する。地域住民10人からなるグループを組織してティラピアの種苗生産と養殖をおこなう。
- 1998年：我が国の食料援助の見返り資金を利用してクレジットを導入し、水産局職員を指導員として1名配置し、政府資金で施設のリハビリを行う。しかしながらグループによる資金管理が出来ず機能停止する。
- 2004年：水産局とPADPPAの支援により機能再開管理委員会が構成されて、運営をコミュニティーに依頼したところ、過去に問題を起こしたメンバーによる運営を提示してきたことから水産局が拒否して打開策がとれないまま現在に至っている。
- 又サイトの隣接地に観光省によるバンガロー建設計画が実現半ばで中止している。

- 対象魚種：ティラピア

2) 問題点とその改善案

- 養殖に従事する住民の組織化に際し、養殖活動に従事しない村の有力者又はその関係者を入れたため（10人中の7人）活動が十分機能しなかった。養殖活動に利権を求める外部の介入があまりにも強く入りすぎたといえる。

【養殖サイトとしては大変自然条件に恵まれているところである。それにも係わらず30年の長きに亘り養殖が成功しなかった技術的社会的環境要因を様々な角度から調査分析して、サイト全体の養殖整備開発計画を作成する】

(4) カルムヤウル (Karhoum Yaouroud)

1) サイト概要

- 場所：カルムヤウルは、タネカココの南西5km程に位置する人口2,000人の農村である。村から2km程離れた場所にサイトがある。地形は、タネカココとほぼ同じであるが、よりなだらかな勾配が広範囲に広がっている。
- 養殖の形態：排水可能な池中養殖
- 施設内容：
 - 貯水池（村井専門家支援で造成）

写真 20



- 水路（既存水路の他に傾斜地のの上側に本間専門家支援で池拡張用水路整備）

写真 21



- 養殖池（1987年に始めて1池造成され、その後段階的に池が造成され現在10池ある。内訳親魚池1、稚魚池1、養魚池8（1,600m²））更に3池造成中。

写真 22



- 対象魚種：ティラピア
- 活動内容：

- 親魚育成
- 稚魚販売
- 成魚販売
- 乾期の野菜栽培（トマト・唐辛子・ヤム芋他）

写真 23



トマト・バナナ・ヤム芋畑

－ 運営管理

- グループ：当初 5 人のメンバーで構成されていたが、現在 10 名となっている。
- グループメンバーの本業は農業である。
- モデルサイト：当サイトは、グループメンバーの管理能力が高く自立発展しているといわれており、ベナン池中養殖のモデルサイトとなっている。その証明として、
 - グループ代表のリーダーシップがある。
 - 各池毎に管理ノートを作成して、すべての活動を記録している。
 - 池当番のメンバーの家の前に木彫りの象を置いて、当番が誰にもわかるようにしている。
 - 他の養殖サイトに積極的に養殖指導に出かけている。
- 収入分配：メンバー分配と銀行貯金に 2 等分している。貯金で村の井戸ポンプが購入されている。
- 稚魚販売
 - 販売価格は 1 匹当たり 25~50 FCFA。
 - 基本的に注文生産で、購入者が稚魚運搬に必要な酸素充填機器とビニール袋を持参する。
- 成魚販売
 - 販売価格は、1kg 当たり 1,000 FCFA。
 - 一般的に 2,000 人の村民と外部から来る仲買人に販売する。

2) 問題点とその改善案

- － 注文通りに稚魚販売が出来ないと、稚魚の体長が大きくなって餌代が嵩む。
【対応策としてグループ代表は稚魚の運搬手段の入手を希望しているが、費用対効果の面から基本的に客が購入しにくるシステムをより充実すべき】

- 養殖サイトの土地は2名の村民の所有地となっているが、土地借地契約は存在しない。但し、地主2名もグループメンバーに入っていることから、暗黙の了解ができていて問題となっていない。

【今後更に下流域に養殖池が造成され養殖事業規模が拡大していくことが予測されるので、全体的な養殖サイト整備計画を作成して計画にそった造成を行うと共に村の伝統的な決まりをベースにした土地利用規則を作成する】

(5) カルムドラ (Karhoum Dora)

1) サイト概要

- 場所：カルムドラは、カルムヤウルに隣接する人口2,000人程の農村である。養殖サイトは、村から2km程離れた傾斜地に出来ている。本間専門家の支援を受けて山の麓の湧水する場所に貯水池が造成され、そこから手を加えた自然水路に沿って780mの間に養殖池がある。
- 養殖の形態：排水可能な池中養殖
- 施設内容：
 - 貯水池

写真 24



- 自然水路

写真 25



- 養殖池 12 池 (総面積 2,480m²)

写真 26



- 養殖の経緯：ソルゴ栽培とユーカリの植林で生計を立てていたが低収入なため、カルムヤウルの養殖事業の成功の影響を受けて2001年に池を造成して養殖を開始した。

- 対象魚種：ティラピア
- 活動内容：
 - ティラピア養殖
 - 穀物野菜栽培（ヤム芋・トウモロコシ・大豆・トマト・オクラ他）

写真 27



- 運営管理
 - 事業者：当初 25 人の村民で構成される 1 グループ（半数が途中メンバーから抜ける）と 1 個人で開始されたが、2005 年に本間専門家の支援を受けて 12 人で構成される二つ目のグループが結成され、現在合計 3 事業体により養殖が行われている。
 - 収入用途：売上げ金は、銀行に事業拡大資金として貯金されている。
 - 事業管理：基本的に規則を遵守する感覚が薄く、事業管理が出来ず生産効率がよくない。

2) 問題点とその改善案

- カルムヤウルと比べて積極的な勤労意欲が見られない。指示されたことがそのまま実施されない。
【グループの活動活性化のためメンバーの再編成と CeRPA 普及員によるグループメンバーを対象とする養殖技術・運営管理指導教育体制の整備を図る】
- グループ代表のリーダーシップが弱い。
【CeRPA の普及事業の中でグループリーダー教育の強化充実を図る】
- 養殖従事者数に比して養殖面積が小さく、収入も少ない。
【貯金を貯めて水路の拡張及び池の造成を行う。又水路の拡張に沿って農業耕作地を整備して換金作物を栽培して収入の増加を図る。】
- 土地所有：酋長の所有地で、土地使用料を支払わない代わりに酋長に役務提供をしている。

(6) サカルー (Sakarou)

1) サイト概要

- 場所：サイトは、コトヌから北 415km の北部ボルグー県の県庁所在地パラクーから北北西 20km に位置する。サカルー村からは 2km ほど離れている。
- 養殖のタイプ：人造湖における生簀養殖の可能性と下流域における池中養殖。

写真 28

写真 29

写真 30